

2024 年 7 月 7 日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒8 番（旧 2 番）（KH 姉）

『御旨のままに』

聖書⇒詩編 37 章 1~6、23 節（MM 姉）

『悪事を謀る者のことでいら立つな。

不正を行う者をうらやむな。

彼らは草のように瞬く間に枯れる。

青草のようにすぐにしおれる。

主に信頼し、善を行え。

この地に住み着き、信仰を糧とせよ。

主に自らをゆだねよ／

主はあなたの心の願いをかなえてくださる。

あなたの道を主にまかせよ。

信頼せよ、主は計らい

あなたの正しさを光のように／

あなたのための裁きを／

真昼の光のように輝かせてくださる。

主は人の一步一步を定め／

御旨にかなう道を備えてくださる。』

礼拝讃美歌⇒386 番

『主に任せよ』

聖書⇒申命記 7 章 6~8 節（ES 姉）

『あなたは、あなたの神、主の聖なる民である。あなたの神、主は地の面にいるすべての民の中からあなたを選び、御自分の宝の民とされた。主が心引かれてあなたたちを選ばれたのは、あなたたちが他のどの民よりも数が多かったからではない。あなたたちは他のどの民よりも貧弱であった。ただ、あなたに対する主の愛のゆ

えに、あなたたちの先祖に誓われた誓いを守られたゆえに、…』

聖書⇒ヨハネによる福音書 15 章 16 節

『あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。』

(祈)

《パン裂き》

聖書⇒イザヤ書 53 章 5~7 節 (TM 兄)

『彼が刺し貫かれたのは／
わたしたちの背きのためであり／
彼が打ち碎かれたのは／
わたしたちの咎のためであった。
彼の受けた懲らしめによって／
わたしたちに平和が与えられ／
彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。
わたしたちは羊の群れ／
道を誤り、それぞれの方角に向かって行った。
そのわたしたちの罪をすべて／
主は彼に負わせられた。
苦役を課せられて、かがみ込み／
彼は口を開かなかった。
屠り場に引かれる小羊のように／
毛を刈る者の前に物を言わない羊のように／
彼は口を開かなかった。』

(式)

礼拝讃美歌⇒151 番 (旧 216 番)

『ああ主よわれら』

《建徳》

聖書⇒マタイによる福音書 6 章 30~34 節 (TM 兄)

『今日は生えていて、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことではないか、信仰の薄い者たちよ。だから、『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、思い悩むな。それはみな、異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである。何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である。』』

聖書⇒マタイによる福音書 6 章 24 節

『「だれも、二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。」』

聖書⇒マタイによる福音書 21 章 18~19 節

『朝早く、都に帰る途中、イエスは空腹を覚えられた。道端にいちじくの木があるのを見て、近寄られたが、葉のほかは何もなかった。そこで、「今から後いつまでも、お前には実がならないように」と言われると、いちじくの木はたちまち枯れてしまった。』

聖書⇒創世記 31 章 1~13 節 (NH 兄)

『ヤコブは、ラバンの息子たちが、「ヤコブは我々の父のものを全部奪ってしまった。父のものをごまかして、あの富を築き上げたのだ」と言っているのを耳にした。また、ラバンの態度を見ると、確かに以前とは変わっていた。主はヤコブに言われた。「あなたは、あなたの故郷である先祖の土地に帰りなさい。わたしはあなたと共にいる。」ヤコブは人をやって、ラケルとレアを家畜の群れがいる野原に呼び寄せて、言った。「最近、気づいたのだが、あなたたちのお父さんは、わたしに対して以前とは態度が変わった。しかし、わたしの父の神は、ずっとわたしと共にいてくださった。あなたたちも知っているように、わたしは全力を尽くしてあなたたちのお父さんのもとで働いてきたのに、わたしをだまして、わたしの報酬を十回も変えた。しかし、神はわたしに害を加えることをお許しにならなかった。お父さんが、『ぶちのものがお前の報酬だ』と言えば、群れはみなぶちのものを産むし、『縞のものがお前の報酬だ』と言えば、群れはみな縞のものを産んだ。神はあなたたちのお父さんの家畜を取り上げて、わたしにお与えになったのだ。群れの発情期のころのことだが、夢の中でわたしが目を上げて見ると、雌山羊の群れとつながっている雄山羊は縞とぶちとまだらのものばかりだった。そのとき、夢の中で神の御使いが、『ヤコブよ』と言われたので、『はい』と答えると、こう言われた。『目を上げて見なさい。雌山羊の群れとつながっている雄山羊はみな、縞とぶちとまだらのものだけだ。ラバンのあなたに対する仕打ちは、すべてわたしには分かっている。わたしはベテルの神である。かつてあなたは、そこに記念碑を立てて油を注ぎ、わたしに誓願を立てたではないか。さあ、今すぐこの土地を出て、あなたの故郷に帰りなさい。』』

聖書⇒ヨハネによる福音書 14 章 2~3 節

『わたしの父の家には住む所がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであらうか。行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもとの迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる。』

礼拝讃美歌⇒427 番（NH 兄）

『われに來よと主は今』

《建徳要旨》